

4 限に行われた小西先生の授業見学で気付いたことをまとめることにする。

小西先生の授業の進行において、総長先生からご指導いただいた点として以下の点がある。

- ①解説の内容について、余計なことは説明しない。線を引いた大切な文だけを暗記させる。
- ②大切なポイントが解説に2箇所ある場合には、両方とも線を引いて、暗記させる。

これらの指摘があった内容は、学生が暗記することに専念するためにも重要な点であることを改めて確認させていただいた。

我々教員の側が常に戒めなければならないのは、暗記させることを妨げる要素が授業において残されていることである。今回の「余計なこと」とご指摘があった内容は、確かに学生の立場になって考えると、新たな疑問やさらなる暗記の負担を増すことに繋がりがかねない部分であり、教員として「説明しない勇気を持つ」必要性を改めて考えさせられた。

それ以外の小西先生の授業進行で、確認しておいた方が良いと思われるのが、次の点である。

本日の最初に取り上げた問題で、テキストに載っている「親族関係図」の部分を取り上げたときに、「血族」と「姻族」の違いについては簡単に触れていたが、「親等を数えるときの大切なポイント」について触れていなかった点である。これは、同じ問題を取り上げたときに、学生から必ず質問がされてきたことである。本番の試験ではこのような「親族関係図」は問題には記載されておらず、自分で書き上げることが必要となるものであるが、その時にこの「親等を数える時のポイント」が分かっていないと、「本人と何親等離れているのか」が分からなくなる。基本は、直系の血族（図でいうと本人の縦列の部分）を基本として親等数を書く。次に「血続きの親族」を考えると、その親は誰か、ということを考えて親等数を確認する（例えば、「叔父・叔母」の親は（父母と同じ）祖父母であるので、2親等である祖父母の子である叔父・叔母は3親等となる。「甥・姪」の親は（本人の）兄弟姉妹であるので、2親等である兄弟姉妹の子である甥・姪は3親等となる等）。このポイントを一度は確認させた上で、改めて暗記の時間を設定すると、学生の疑問は解決される。

学生が理解できているかどうか、各選択肢を暗記させた後、次に当てる学生に確認していたのは、前回の授業の反省を踏まえての工夫であると考えるが、時々学生を当てるときに、大切なポイントを確認する質問を入れるなど工夫をされると、授業に緊張感をもたらすことができるのではないか。

以上が改善されれば、さらに学生のためになる授業になると考えられる。